

学会名 リハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024  
(2024年10月3日～4日)

研究テーマ 認知症マフを活用した院内ケアの取り組み

病院名 医療法人喬成会 花川病院

演者 ○形川久美子(看護師)

## 概要

【目的】我が国は超高齢社会であり、健康寿命と高齢者の生きがいや幸福感をもった生活を送ることが同時に課題である。近年、認知症マフ（以下、マフ）用いたケアが注目されており、A病院で導入を開始した。マフを活用した院内ケアの実践により生きがいや幸福感が向上した事例を報告する。

【実践】1. 期間202X年9月1日～10月15日 2. 方法1) 全職員対象にマフについて研修実施2) 看護師・介護士・作業療法士を対象にマフ作成研修実施 3) 作業療法で対象患者とマフ作成実施 4) 病棟の余暇活動で対象患者とマフ作成実施 5) マフケアを対象患者へ実施

【結果】マフ使用患者は、short QOL-Dで評価を実施。マフ作成患者は、MMSE23点以下をQOL-D、24点以上は、高齢者向け生きがい感スケールで評価を実施。職員には、インタビュー調査を実施。その結果、対象者すべてに効果があった。

【考察】先行文献において、高齢者の主観的幸福感に影響する促進因子には、地域活動・余暇活動・友人や家族との関わりや、高齢者のいきがいの1つとして「他者のために今の自分のできることをしたい」という思いであると述べている。本事例においても、マフを活用した院内ケアの実践は、携わるすべての患者・職員のいきがいや幸福感が向上することが明らかになった。特にマフを作成する患者・職員からの肯定的な意見が多く、「人の役に立つことの喜び」「楽しさ」が、いきがいや幸福感の向上につながったと考える。